

アガペワールド



London
Keiko C Holmes
35 Leyburn Gardens
CR0 5NL London
E: agape.kingdom@gmail.com
Tel: +44(0)20 8686-4263
New : Agapeworldreconciliation.org

日本
小菅啓子
横浜市南区中村町5-308-12
E: victory8068@gmail.com
Tel: 090-1266-3390
www.agapeworld.org.jp



アガペワールドを支えてくださっている皆様、いかがお過ごしでしょうか？ロンドンでは4月と5月の上半は寒かったのですが、6月は青空が多く、暖くなりました。4月にはリングの花が綺麗でした。写真は近所の庭にあるりんごの木で、秋には素晴らしい実をつけます。

5月13日の日曜日に、パラダイス・ランチがありました。遠い所からも、多くの方々が来てくださり、22名が集いました。元捕虜の方はただ一人の出席でしたが、新しい方も増えています。ニュースレターで紹介した、ロナさんがウィンブルドンからエリザベスに支えられて来てくれました。ご高齢ですがまだまだお元気です。6月後半は非常に暑い日が続き、32、3度まで上がる日が続きましたが、今は18度くらいの気温に下がりました。

さて、私は7月1日から8月にかけて元捕虜の娘さんご夫妻（ルース ドブソン、リン ドブソン）、彼らと私の共通の友達（グレイス・ハバショウ）と日本に行って来ました。ルースの父親はジャワで日本軍の捕虜でした。子供の時日本のおもちゃを通して日本語に興味を持ち、大学時代夜間の日本語コースに通いました。そのため日本語ができたので収容所では通訳として用いられたそうです。日本軍人の酷い仕打ちを仲間が受けそうになるたびに、彼がかばって代わりに殴られることがよくあったそうです。仲間をかばったのは、日本軍は通訳である彼を殴るとき少し加減してくれたからだそうです。無事帰還したルースの父は、貿易会社で高給を取っていたのですが、神様の召しを受けて、仕事を捨て日本へ宣教師として行きました。

ルースは英国で生まれましたが彼女が2歳の時日本へ行きました。日本が自分の国だと思って育ち、友達と一緒に日本の学校に行きたかったのですが父親がそれを許しませんでした。それは捕虜時代の経験からルースに日本人と結婚して欲しくなかったからなのです。



三重県熊野市：獅子岩の前で

父親の気持ちが分からないルースは随分反抗し、不良娘ようになっていったのですが、イエス・キリストに出会ってからすっかり変わりました。

父親はずでに他界していますが、母親は94歳で健在です。



群馬県沼田市の人たちと

そのルースの夢――

両親が牧会していた群馬県、長野県、子供の頃の憧れだった京都、またアガペワールドの関係地を訪問したいという一の実現となりました。レンタカーで東京、横浜、三重県、和歌山県、大阪、奈良、京都、長野県、群馬県、関東地方、北海道を回りました。旅行中多くの友達のお宅や教会に泊めていただき、素晴らしい経験をしました。両親が活躍していた群馬県と長野県では、親しくしていた人

たちが集まってくれ、感動の日々でした。ルースは日本に住みたいほど日本が好きで夢の実現を神様とお世話になったみなさんに感謝しています。日本語も上達し、大いに喜んでいきます。2019年に再訪を希望しています。

家に帰ってみると我が家のそばにある2本のりんごの木には実がたわわになっていました。このりんごの木は以前にもご紹介しましたね。水を与える人がいなくて心配



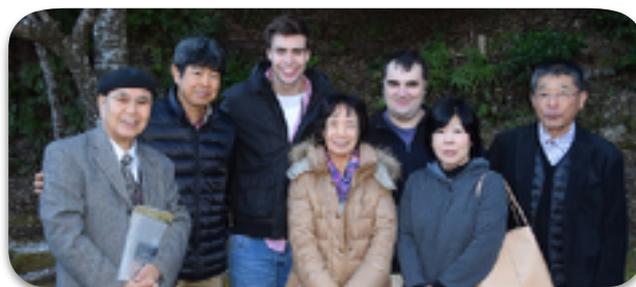
だった我が家の庭の野菜も天からの恵みの雨によって豊かに成長していました。

元捕虜の皆さんをこれまでに10組泊めてくださった榎本ご夫妻に、ロッキーたちのお世話を頼むと、すぐ承知してくれました。周子さんは英語に堪能で料理が抜群、明るくホストに適任です。ロッキーたちの滞在について、皆さんにと嬉しい便りをくださいました。次回はロッキーの便りを紹介します。

イルカボーイズの孫との巡り会い

榎本周子

2017年1月20日の夜、恵子さんからメールが届きました。英国からシドニーへ移住した元イルカボーイズの1人で、今なお健在な94才のJohn Craig についてと、



彼の孫の Lochie (ロッキー)につ

いてでした。Lochie が2月上旬に友人達と日本旅行を計画し、その際イルカを訪れて、祖父の足跡をたどりたいたということが書かれていました。孫達世代の若者がそういう思いを持って

くれたことに感銘し、主人とともにイルカ案内を引き受け



入鹿ボーイジョン&ジョウン
1995年

ました。

Lochie、Nick、Daniel は、優しく思いやりのある好青年で、とても楽しく有意義な時間を持つことが出来ました。入鹿（イルカ）では選鉱場跡地、鉱山資料館、英兵墓地を案内し、トロッコに乗ってもらいました。墓地へは、老人会会長の皿家さん、長田健二・直子夫妻も来て下さり、花を手向けお祈りしました。皿家さんは、忙しい中、写真を沢山持ってきて戦争中や終戦後の様子を話してくれました。中でも彼のお母様の話「戦前、満州に渡った娘が、日本に帰ることなく亡くなりました。それ故、異国で肉親を亡くした人の気持ちがよく分かるので、この英兵墓地の世話をしてきました。」は、印象深く心打たれるものでした。定期的に清掃活動をされていますが、さらにその日の朝、彼の奥様が墓地を清掃して下さい

たそうです。ご夫妻の心遣いに心から感謝します。鉱山資料館で、Lochie は祖父母が写った写真を見つけました。1995年の「和解の旅」の際に撮られたものです。彼にとって予期せぬ嬉しい驚きでした。館長さんがその写真を壁から外して下さい、Lochie はそれを持って写真を撮ることが出来ました。

その夜、John Craig と電話で話しました。とても穏やかで優しい方でした。1995年の「和解の旅」の際、我が家に泊まれた元イルカボーイの Jack Shotton について尋ねると、よく覚えていると



ロッキー 鉱山資料館にて

のことでした。なんだかとても懐かしく、嬉しい気持ちになりました。また、孫達によって書かれた冊子「John Craig Living Historian ・ This is Your Life」を読んで知ったのですが、彼はオーストラリアで成功した立派な人です。Lochie達が彼のことをどれほど愛し、また尊敬しているか

ということが、よく理解できました。



Lochie達3人とも2度目の日本旅行でした。1泊2日という短い熊野訪問でしたが、若い彼らには日本的なものに出来るだけ多く触れ、味わって欲しいと思っていましたので、とても古い我が家ですが、日本の生活様式を知るという意味で宿泊してもらいました。また、とても寒い日でしたので、鉱山資料館横の足湯、日本料理を楽しんだ後の我が家での hot sake を飲みながらの一時が、彼らにとって少しでも暖かく、そしてくつろいだ時となったことを願っています。

翌朝、一番の列車にも関わらず、長田夫妻が見送りに来て下さいました。Lochie のとてもフレンドリーな「Kenji !」が彼らをそうさせたそうです。

列車が出発する直前のLochieの言葉「あなた達の家泊めてもらったことは、この旅行のハイライトの一つになる」は、私たち二人を最高の気分にしてくれました。

韓国の留学生

5月から韓国人で東京外大の大学院生、スソンさんが、小菅さんの紹介で、我が家に滞在しています。彼女は近くの80数年の歴史のある英語の学校に通っています。この学校ではいろんな国から短期留学の人たち（長期の人も数人いるようですが）が多いようです。私の小中学校の同級生の娘さんも来ています。最近友達もでき、楽しんでいるようです。私はいろんな人にこの学校を紹介しているので、一度授業を受けてみることにしました。先生方が非常に熱心で良い授



業をしてくださっていることに感動しました。スソンさんはお料理が上手で、クラスの仲間が自国に帰られる最後の日には、仲間たちと最後の食事を楽しむために、韓国料理を作って持って行きます。大抵は私にとっては辛すぎる料理を作るのですが、先日は辛味を控えたビビンバを作ってくれました。久々に美味しい韓国料理を楽しみました。彼女は今年一年休学をして数ヶ国を訪問することにしています。ロンドンでは多くの人と知り合いになれたようです。

支援会よりご挨拶

主の御名を賛美いたします。

早いもので、今年ももう9月を迎えました。東京は8月は雨の日が多く野菜や果物の収穫に影響しているようです。皆様の地域ではいかがでしたでしょうか？

いつもアガペワールドのご支援を心より感謝いたします。今年も恵子が元捕虜関係者たちと共に日本を訪れ日本の各地を巡り、素晴らしい出会いを経験しました。一行はルースの両親が親しくしていた長野県や群



馬県で心温まる再開や出会いをしました。特に小さい頃のルースを知っていた人たちは、彼女を今も「ルッチちゃん」と呼んで訪問を喜び、最高のもてなしをして

くださったそうです。恵子は皆さんより長く滞在し、教会でも話をする事ができました。

私は夏の間、アメリカから孫たちが来ていて、恵子達との交流が出来なく、とても残念でしたが小菅啓子から報告受け、それぞれの場で素晴らしい主の恵みと出会いがあったようで心より主に感謝いたしました。

いつもアガペワールドを支えて下さっている皆様の上に主の恵みと導きがありますようにお祈りいたします。
(支援会 小堀豊代子)